



忠一さんの履歴書

履歴書は所在地のみの記載であるため、敵軍との交戦があったのかは定かではありませんが、戦禍うずまく中の上陸だったことは間違いありません。忠一さんは到着からわずか1週間で約2000km以上の距離を移動し、大陸南への侵攻を進める日本軍の拠点・太原(タイユワン)付近の警備にあたります。

それから約1年半の間に、大陸の占領地は次々と奪還され、戦況は悪化。本土防衛や南方への侵攻のため隊は分散され行方不明になる人もいたようです。

そしてついに、忠一さんは太原で終戦を迎えます。本土から遠い地にいたためすぐに日本へ戻れず、翌年1946(昭和21)年5月に長崎県佐世保港へ到着。そして現役満期で除隊となりました。



忠一さんの足跡

- 1941年3月10日 善通寺・日本陸軍歩兵144連隊入隊
- ① 19日 坂出港→羅津(ラジン)港
- ② 25日 虎林へ到着
- 5月9日 虎林陸軍病院へ入院
- ③ 7月29日 大連(ターリエン)を出帆
- 8月1日 広島宇品港へ到着、広島陸軍病院に収容
- 10月22日 病気が治癒(高知陸軍病院)
- 1944年2月14日 福岡県門司港を出帆
- ④ 2月15日 現韓国釜山(プサン)に上陸
- ⑤ 20日 山海関(万里の長城の起点)を通過
- 22日 山西省・壽陽(ショウヤン)に到着
- ⑥ 1945年8月 太原で終戦を迎える



父の足跡を

たどり

西山勝美さん  
(夜須町)

戦争追憶記その2



戦時中のたくさんさんの写真や資料を提供してくれたのは西山さん。父の生前整理で出てきた軍隊時代の履歴書をきっかけに、あまり戦争のことを語らなかつた父は戦時中どこでどうしていたのかと思ひ、その履歴書を読み解いたといいます。

西山さんの父、忠一さんは20歳の時に徴兵され、香南市を離れます。最初の配属は1941(昭和16)年3月10日、香川県善通寺で編成された歩兵第144連隊でした。太平洋戦争が始まる約8カ月前のことです。

忠一さんは入隊して間もなく中国大陸へ渡り、別の隊への転属を経て3月末から8月までの約5カ月間を中国大陸で過ごします。

当時の日本は、以前の戦争で中国大陸の一部を占

香南市から戦地へ  
終戦までの父の軌跡

領しており、さらに土地や資源を奪うことで自国を豊かにしようと考えていたようです。また、同盟を組んでいたドイツが旧ソ連(現ロシア)との戦争に勝てば、その土地も占領しようと思んでいたのです。日本から中国大陸へ多くの隊が派遣されたのはそのためと思われます。

忠一さんが駐屯していた虎林(コリン)はマイナス45度を記録するほどの極寒の地で、濡れた手ぬぐいを振り回すと、たちまち棒のようになつたそうです。

兵士たちの衣服でその寒さがうかがえます



忠一さんは5月、病気を患い、一時中国の陸軍病院へ入院。療養のため8月に日本へ戻ります。10月に病気が治癒すると、再び隊に復帰。それから2年間弱は、国内の別隊への転属や分遣をしながら、兵士としての教育や訓練を受けて過ごしたようです。

入院中の忠一さん



1944(昭和19)年2月、忠一さんは再び朝鮮半島・中国大陸に渡ります。この頃の日本は中国側についていたアメリカから数年にわたる輸出制限と本土への空爆を受け、戦況は悪化の一途を辿っていました。そのため、何とか中国と決着をつけようと兵力の大部分を中国大陸に集中させていました。